

私の推薦図書②事業力

企業経営漫談士 岡野実空

「経営人」に必要な能力は、「事業力」+「人間力」。泰斗ドラッカーの3冊に続いては、その「事業力」の推薦図書です。現在のコロナ禍を背景に、まずは「経営危機」対処法の世界的な教則本。次はそんな中でも必ず取り組まなければならない、「イノベーション」のバイブル。そして最後は我が国代表、故小倉昌男氏による不朽のロングセラーの3冊です。

①『巨象も踊る』

「巨象」とは、言わずと知れた IBM。これは前世紀末、未曾有の経営危機に直面し、CEO として外部から招請された R・ガースナーによる、その困難な再生の過程と要諦の克明な回顧録です。

その直前までユーザー側にいた氏が、内部に入り目指したのは、業界の覇者として独善に陥っていた「巨象」を、「顧客のニーズ」に応える組織に変えること。それはドラッカー流に言えば、企業が行うべき2つのことの実践。まずは現在のニーズに応える「マーケティング」。そしてもう一つは、明日のニーズに応える「イノベーション」です。

またそれらに目途がつき次第、氏が生え抜きのパルミサーノに後事を託し、潔く身を引いたことから、この本はトップの出处進退のお手本ともなっています。因みに当時、日本 IBM で中間管理職向けセミナーを担当し、ミドル層の偽らざる反応を見聞きしていたこともあり、私はこの本が持つ不世出の価値の生き証人の一人でもあります。

②『イノベーション 5つの原則』

ドラッカーのいう「明日」が、「近未来」から「翌日」に近づきつつあるいま、「イノベーション」への取り組みは、すべての組織が「毎日」欠かすことのできない「習慣」にならざるを得ません。

そんな問題意識で10年前に MCN が発足した際、ドラッカーや C・クリステンセンの定評ある名著を押しつけて私たちが教則本としたのは、当時まだ新刊だったこの本でした。その最大の理由は、「S・ジョブズのような天才に頼らず、チームとしてイノベーションを起こす」というコンセプトが、私たちのイメージとぴったり一致したからです。

実際、パソコンのマウスやインターネットの URL などを生み出した、世界最高峰の研究機関・SRI の5原則に是非はなく、それが実行できるか否かが、組織の存続を左右することになりました。

① 巨象も踊る

ルイス・ガースナー著
山岡洋一・高遠裕子訳 日本経済新聞出版社

② イノベーション 5つの原則

カーティス・R・カールソン、ウィリアム・W・ウィルモット共著
電通イノベーション・プロジェクト訳 ダイアモンド社

③ 小倉昌男 経営学

小倉昌男著 日経 BP

③『小倉昌男 経営学』

アメリカが「巨象」なら、我が国代表は「黒猫」。いま日本中で誰もがその世話になっている「宅急便」生みの親、故小倉昌男氏の実業人必読の著書です。しかし多くの方が目を通して割に、何度も読み直した方は少数派。それは「経営人」として、この本の価値を多面的に評価している証です。かくいう私も、前世紀末の発刊以来、担当セミナーの課題図書として事例研究に使用する一方、さまざまな質問への答えとして頻りに引用して来ました。

また今回、もう一度読み直しをお奨めするのは、その後半に書かれている「経営リーダー10の条件」再チェックのため。いまコロナ禍で立ち往生している経営トップや組織は、各項目の意味とその実態を見直し、クリアできていない部分に緊急対応せざるを得ないからです。因みにその筆頭は、「論理的思考」。この際、我が国民性を踏まえた、その「優先順位」も再考してください。

最後に、「事業力」推薦図書の総括は、組織ミドルの役割の再確認。我が国で小倉氏の10条件すべてを満たす、ガースナーのようなリーダーは希少であり、足りない部分は組織的にクリアするしかありません。「真の顧客ニーズ」をつかみ、組織「ビジョン」に沿って、「チーム」でそれに応える「価値を創出」する。それには、ミドル主導による、「SRI の5原則」の実行あるのみ!! izz!!

2021年4月19日 実空